





「ゾウの森とポテトチップス」を

読んで

海そう小学校 四年四組 中川 冬萌

わたしが読んだ本は、「ゾウの森とポテトチップス」です。この本は、ホルネオ島のゾウたちが、人間の事で大変な生活をしているというのが書いてある。お話です。「ゾウの森とポテトチップス」というだい名がおもしろかった。なので読んでみました。

いちばん心にのこったのは、真ん中ぐらいの場面でゾウの赤ちゃんが川をわたる時おぼれそうになっでいて、とてもドキドキしました。そして、無事にわたれた時、安心しました。

もう一つ心にのこったのは、最後の方の場面で、ゾウが住んでいる森は、ほとんどの木がアブラヤシの木でした。アブラヤシの木がらは、私たちが大好きなポテトチップスなどのざいりょうとして使われる、パーム油

が、とれるからです。それをうえたために、ゾウたちの生活の場がなくなっているのを知り、とてもざんねんでした。

ほかに心にのこったのは、ぬかるみにはまったゾウがいました。そのゾウが助け出されなかった時、やったー、よかったーなどの声が上がった時、びっくりしました。なぜならわたしは、村人が、ゾウをきらいだと思っていたからです。だけど、大好きな事を知ってうれしかったです。

わたしは、ゾウの森とポテトチップスを読んで、人間のためにゾウたちの生活の場をうしなっているのを知り、とても心がいたみました。だから、自ぜんについての本をもっとたくさん読んで、自ぜんの事を知りたいと思います。

海そう小学校四年 平野 ふうが  
犬と私の10の約束

このお話で私は生き物を大切にすることを教  
えてもらいました。また、生物には神さまが  
決めた生命の期げんがあることも、この本で学  
びました。この本は悲しくもなるし、楽しく  
もなる。しきな作品です。だからぼくはこの  
本を書こうと決めました。

はじめにぼくは犬をパソコンで見ながらそ  
の子を見に行つてその子がいはいめました。  
しかしあかりさんけいベツトジョブでか  
たわけではあつた。あかりさんはお母さん  
をなくしてしまいましたが、でもそのお母さん

から10の約束を教えてもらいました。そのお  
母さんが亡くなつてかうソックスが家にヤッ  
てそのままいすわつてしまします。そしてソ  
ックスがいろいろな出記事を書きこしてくれ  
からです。ぼくが一番すごいと思つたのは、  
ソックスの望みをいつげんする力です。なぜ  
かというところ、かばまきを食べるためにソッ  
クスが何を持っていてたりいってちゃんど  
分かつていたので私はかじこいと思ひました。

かいぞう文庫

次に、あかりさんが転ぎんの津ごうでソックスが**速**れてこれなくなつて会えなくなつてさびしいよぼくは思いました。お父さんはほん当はすぐやさしいんだと思ひます。それにえらい人たちが来ていた時も、ソックスをつけて帰つてきた時も病院を建てた時もほんとうにやさしいと思ひました。

さい後に、ソックスといてイヌジバになつているのはおかしいと思ひました。だつて犬との10の約束にあつたからでもよろこばせようと思つてあたりを深しむすごいと思ひました。あかりさんが2さいになつて1日中のさんぽに行つて、朝ひきとめた時にいかなきゃよかつたよほくはおもいました。でもソックスがちゃんと最後に**ありがとう**と言つた所で泣けました。それだけ10のやくそくはすごい物なんだと思ひました。

**感想** ぼくはこの本を讀んでおもしろく悲しい所もありました。けれどぼくは犬をかつています。この様に幸せに生きてほしいです。